

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	計画策定と実行プロセス
手法名	木の駅プロジェクト
主体	特定非営利活動法人賀露おやじの会
背景(地域の課題)	<p>放置された人工林の整備の必要性が指摘されている。このことは単に里山の環境面の問題だけではなく、その地域に住む人々、ムラのにぎわい、山里の誇りの取り戻し等、社会的な側面を持つものであり、この点に配慮した取り組みが求められている。</p>
手法／方策の詳細	<p>(1)間伐材等残材の地域通貨を組み合わせた買い取り 森の整備を促進させるため、整備に伴う間伐材等の残材を、通常であれば、1t当たり3,000円であるところを、NPO等で資金拠出し6,000円で買い取る仕組みを創出。買い取りに当たっては地域通貨を用いている。 価格を向上させることで、作業者のモチベーションを向上させると共に、地域やNPO等の善意の寄付が森作りに投入されることから地域全体の森への意識向上を育み、地域の経済的側面にも寄与するという効果(森作りを軸にした地域の「心地よい経済」づくり)を生み出している。</p> <p>(2)地域商店への貢献 残材の買い取りに用いられる地域通貨の流通は、地元商店の活性化につながっている。森と商店街をつなぐ効果を生んでいる。</p> <p>(3)多様な主体による資金拠出 負担金(トン当たり3,000円分)については、行政の補助だけでなく、意識的にNPO、企業、市民等幅広い寄付を募ることが、多様な主体の連携や協働を促進させることにつながる。</p> <p>(4)自治の育み、全国の展開状況 岐阜県恵那市、島根県智頭町、愛知県豊田市などで先駆的な取り組みが行われており、住民自治を育む等の効果もある。</p>
手法・技術的視点	<p>森林整備による間伐材等の残さを地域通貨と組み合わせて買い取ることにより、保全活動に経済的な効果を生み出している。また、多様な人々の参加を促す仕組みが随所にみられる。</p> <p>里地里山保全活動を単なる環境保全だけでなく、活動に携わる人々のモチベーションを高め、かかわる人々の層を広げるなど地域の社会的側面での活性化を促している点が着目される。</p>

<p>実行プロセス・運営体制のイメージ</p>	<h3 style="text-align: center;">木の駅プロジェクトの係わる主体とその機能</h3>
<p>図・写真資料</p>	
<p>参考資料</p>	<p>里なびin静岡パワーポイント資料(丹羽健司氏) 木の駅プロジェクトポータルサイト http://kinoeki.org/</p>